

「身体拘束患者の実態調査」 について

加古川中央市民病院 精神神経科では、現在、入院された患者さんで身体拘束ラウンドが行われた患者さんを対象に下記の研究を実施しております。

この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

身体拘束は倫理的問題、身体機能の低下、精神機能の低下など重大な副作用がありながらも医療安全上やむを得ず実施されている現状があります。身体拘束の背景として、転倒のリスクで実施されたのは50%と報告されています。

本研究は、当院での身体拘束の実態調査を行い、現状の課題等明らかにし、当院で身体拘束を最小化するための検討材料とします。

【研究期間】

この研究は病院長承認日～2027年 12月 31日まで行う予定です。

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

2024年4月1日から2026年3月31日までに身体拘束ラウンドを受けられた患者さんの下記情報を診療録より収集いたします。

- ①基本情報：年齢、性別、合併症、嗜好、家族歴
- ②疾患情報：基礎疾患名、精神疾患名、精神科受診歴、MRIやSPECTなどの脳画像、血液検査、内服薬、使用された向精神薬、せん妄の有無、リエゾンチームの介入の有無、認知症ケアチームの介入の有無、転帰
- ③身体拘束内容：身体拘束の部位や種類・数、期間、終了時の身体拘束数

【個人情報保護の方法】

研究実施に係る試料・情報を取扱う際は、個人情報とは無関係の番号を付して、研究対象者識別番号リストを作成して、匿名化を行い秘密保護に十分配慮します。

研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。この研究に参加していただいた患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。（CTの匿名化の情報は、Dicom匿名化システムを用い患者ID・氏名・生年月日等の情報を削除したものを送付します。）患者さんの個人情報は研究責任者が責任をもって保管します。

【試料・情報等の保存・管理分担者】

加古川中央市民病院 精神神経科 大谷 恭平

[データおよび試料提供による利益・不利益]

利益：通常診療の情報をういており、データをご提供頂いた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。

不利益：診療録からのデータのみ利用するため特にありません。

[登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて]

本研究において取得したデータ等は、研究期間中は加古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しは行いません。患者さん及びその家族等から研究参加辞退または同意撤回の申し出があった場合には、その患者さんに関するデータはすみやかに廃棄します。

[研究成果の公表について]

研究成果は学術目的のための論文や学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定できる情報は公表いたしません。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

いつでも可能です。患者さんのデータを用いられたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。研究参加の取りやめの申し出を受けた場合、それ以降には患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかし、同意を取り消された時点ですでに研究成果が論文などで公表されている場合は廃棄できません。

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 精神神経科
研究責任者名：大谷 恭平
連絡先：079-451-5500